

# 大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 京都大学 総長 御名前 山極 壽一 様

## 1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

大阪らしいテーマ展開、大阪とアジアを代表するような万博はどうか。具体案として「第二のジャポニズム」を提案する。19世紀のジャポニズムはパリ万博の際、浮世絵が描かれたうちわを持ち帰ったヨーロッパの婦人方がこれをファッションに取り入れ、ジャポニズムとして広がった。

政治思想がなく、商人文化として市井に、特に女性により広がったことで、浮世絵の考え方をマネーやゴッホが取り入れ、美術だけでなく欧米的な客観主義・還元主義的な思想変革の触媒にすらなった。

これらは今の大阪と似た状況である。今の日本はマンガ、コスプレがブームとなり、和食や大阪でいうと文楽のような文化が広く海外にも受け入れられている。これらは科学技術のように主体・客体を明確に分けず、共感性の高い情緒で人を揺り動かすもので非常に日本らしい。

実はロボティクスにもこの考え方は通じており、アンドロイドとは、人形と心を通じ合わせることができると感じる日本人の感性であり、人々はそれに魂が込められているように感じる。日本庭園も同じで、回遊式庭園は文化の真ん中に座っていて人と自然とが対話する空間である。

そういったもの、感性が世界でも輝きを見せ始めている。第二のジャポニズムというのは、地に足の着いた文化を近代化の嵐の中でもしっかりと残しながら、一方で先端的な科学技術に支えられ生活スタイルを併せ持っている。これをアジアと合わせながら出していけないか。

日本的な「いのち輝く」とは、モノにも魂が宿ることであり、虫、鳥、木々にすら魂がある。和食は単なる料理ではなく、生活が食にかぶさっていることが世界遺産になった。

いのちに文化がかぶさり、いろいろな命と輝きながらつながるのが日本の文化であり、世界とはそういうものである、ということを知らしめ、理解してもらうのが万博の役割ではないか。

## 2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

地方分散もなかなか進まないが、日本人の特徴である「見立て」をつかって地方の人の生活デザインが生き、多様性を尊重できる社会を表現できないか。「見立て」とはあるものをその場所の風景ではなく、別の「場所」に映す手法である。見立てをつかってパビリオンや場で表現する。

それらを水でつなぎ、未来を演出をする。大阪は本来水の町であり、河川商業で栄えた。これからの時代は陸上利用は限界で、空中インフラと、水上交通が発展していく必要がある。

万博では、新しいモビリティ、トランスポートを予感させる展示ができれば面白い。これらは線ではなく点でつなぐので土地の個性が生きる。そのようなモビリティを使いながら人だけがまたモノだけが移動する。これまでと全く違う地方分散型の社会ができる。

現在の日本特に大企業はあらゆることに遅れているという危機感をもっているが、追随するのではなく、日本ならではの最先端を示すためには東京型の考え方ではだめ。

日本は個々人の生活レベルが高い、あらゆる層に行きわたった質の高い生活や、政府のやっていることを笑いで倒す逆転の発想＝市民の力強さ、町人文化をいかに表現できるか。科学技術に

依存した日本の未来を大阪で描いても本当の未来にはなりえない。もっと違うコンセプトで、町人文化を核に据えたような生み出し方を考えてはどうかと思う。

### 3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

離散型の会場では、アプリを多用するのがよい。リアルな来場者にアプリを提供し、会場外でもメニューを受け取れる。関西に飛び地があつて、様々なところで万博を体験できるのが。バーチャルな空間で出会いながらも、リアル会場に来ることでその場でしかできない体験ができる。その時に「見立て」をうまく使い、どこにいてもいくつかの会場や地域にいるような感覚を持てるとよいのでは。5年後の未来の自動翻訳機で、空間を共有してことばで共感し、楽しく美しく「シェア」する。これからのキーワードはシェアだとおもう。

日本的な考えでは人間もいのちの一つであり、土や海や岩にもいのち（魂）がやどる。物理的に会場に動物を入れることは難しいと思うが、VRで見せるとか、部分的に魚、虫、鳥を入れることは可能。ミクロの世界とマクロの世界の命を表現する見取り図があつてもよい。

命のつながりとはつまりコミュニケーションである。おもしろいのは植物のように何千年もつづくもの、虫のように1日で命を終えるようなものがうまく対話している。植物は虫を花でおびき出して花粉をつけて飛ばすことで繁殖する。人が鳥の声を聴いて何かを感じるのは、これを本質的に実感しているからであり、そのようなことを再度思い起こせる仕組みを作ることが必要。

またアジアと共通するのは家族を大切にしていること。そして女性が外で活動でき、商売でも女性が前に出る。歴史の表面には出てこないが、生活面で根付く価値観、文化を前面にだしたい。

また日本は森をうまく使っている。神社仏閣には必ず森があり、沖縄の御嶽のように森の中に神聖で神が宿る場所がある。日本人にとって落ち着くのは田園風景だが、心がざわざわするのは森である。万博の緑地ではこんもりした森をつくっては、自然の森にバーチャルな鳥や虫がいて、命とセイントなものを結びつける、あの世とこの世を結びつけるという展開がよい。

### 4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

日本は昨今自己実現、自己中心をよしとされるようになったが、西洋のデカルト的な考え方を歪んで受け止め、無責任社会の裏返しともとれる。本来の日本人の良さは他者とのつながり、人に見られることで自制し、社会を作っていくところ。西洋から見たアジアの美点でもある。他者とのつながりを是とする考え方はカオス（多様性）にもつながり、アジアと共通する。大阪のミナミはまさにカオス。カオスを「シェア」の視点でデザインしていればよいのではないか。

また、「サービスしすぎない」こともポイント。日本のすし職人は上から目線だが、それが顧客の満足につながる。ひとは従属されるとどれだけサービスされても満足しないもの。

人はホモ・サピエンスになり「言語・文化」の壁を作った。民族の壁を翻訳のIT技術で超える、次は人間だけでなくアンドロイドや犬と会話したり、神と対話するような広がりがあるとよい。

大阪はしゃべくり文化。会話、対話などしゃべる文化を発信していくのがよい。大阪人の笑いの文化、人を立てて自分を下げる社会観、コミュニケーション力をきちんと表現したい。

生のコミュニケーションを技術が支える。人間中心のsociety5.0にもつながる。人間の生き生きしたところを技術が支えるのが未来の姿であり、それを表現する万博であってほしい。